

あの日・・・

被災地から、東京都の小学生にメッセージをいただきました。

家に帰って弟に本を言読んであげているときに「津波だあ」という大きな音がして「ドドド」というせせこましい大きな音がしました。もうために前二階に上がれよ」という祖父の音がして、私は弟の手だけをしっかりとぎて、今まで出したことのない速さで二階に駆け上がりました。津波で家がどんどん流されていく様子がまどから見えるので「家族全員、死に止まれ」と祈っていました。すると奇跡的に家の目の前で止まり、水も二階まで上がらずにギリギリで止まってくれました。がれきや木村と一緒に車も流されてきて、その車の上に人がいました。そのうちに祖父が「どこからロープを出してきてロープを使ってその人を救出しました。その人に服をわたすと「ありがとうごさいます。ありがとうごさいます。何度も言っていました。私は「助けて良かった。協力するにとても大切なことだ」と思いました。その後、私は両親と別れて、仙台の親せきの家にひなんしていました。

学校が始まってからは、水道の水が飲めないことが不便で、水道タンクが津波で壊れていたので、通学路もがれきや震災ごみなどで塞がったり、工事などがあちこちでできてあちこちがたまたまです。それに校庭と体育館が使えなかつたので、いっしょに遊ぶことが出来なかつたです。給食の面でも、毎日パンと牛乳とカップのデザートだけで、温かいごはんとおかずが食べられませんでした。

その様な不便な学校生活中、私は全国から支援をいただいたことにとても感謝しています。東京の枝川小からは、運動会用品をたくさんいただき、今振り返ると「あの支援のおかげで運動会は成り立ったなあ」と思い、とてもありがたく思っています。外国からもはげまの手紙などをいただき、本当に支援をくださった方は、思いやりのある優しい人達だなと思います。そして私は支援をもらう度に「絶対いつかこの恩返しをしたいな」と思っています。

最後に、私はこの大きな災害を必ず「地震津波」地震があつたらしく海から逃げることを伝えていきたいです。多くの犠牲者や悲しむ人も出たから、おそろしく自分でもこの大震災を思い出したくないけれど、時々思い出して絶対この出来事を忘れないでほしいです。そして支援をしてくださった方に恩返しをしたいと思っています。どこかで災害があつたら私の出来る事をすぐに支援します。

宮城県 東松島市立 大曲小学校 4年 杉浦 遥

お手紙をいただいた杉浦 遥さんの通う東松島市立大曲小学校は、東北地方太平洋沖地震に伴う津波で、大きな被害を受けました。

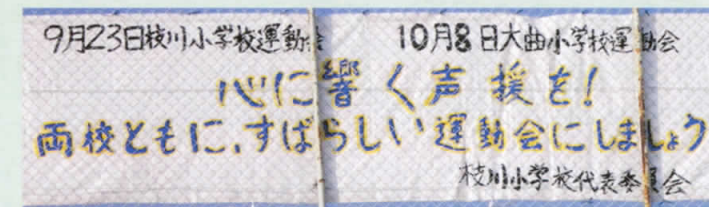
5月に開かれるはずだった運動会は延期となりました。運動会用品がほとんどなくなってしまったことを知った江東区立枝川小学校は、代表委員会による励ましのおたよりと一緒に、綱引きの綱や大玉、万国旗などを贈りました。

平成23年10月8日、大曲小学校は、5か月遅れの運動会を行いました。このとき、大曲小学校の屋上には、枝川小学校から届いた横断幕が、両校をつなぐかけ橋として掲げられていました。

みなさんも、さまざまな形で、被災地の仲間に多くの応援を送ってきたと思います。これからも、私たちができることを考えていきましょう。



枝川小学校から届いた綱や大玉を使って運動会が行われました。



枝川小学校から大曲小学校に贈られた横断幕

3月11日の大地震で、私の家まで津波がきて、床下しん水になってしまいました。この震災で、多くの方々が亡くなり、原発事故や水不足など今までに経験のないことが起きました。

私は、学校から帰ると中だったので、あわてて学校にもどり助かりました。3月11日のあと、私たちが笑顔にするために、たくさんの方が来てくれました。自衛隊の人たちが、おにぎりや豚汁を作ってくれました。自衛隊のみなさんが一生けん命に作ってくれたのがうれしかったです。自衛隊のみなさんや世界の人たちに「ありがとう」と言いたいです。



自衛隊の炊きだしの様子

福島県いわき市立高久小学校 5年 阿部 千桐